

2022年度

第48回 北海道指定図書

●北海道の先生がおすすめする本を読んで、読書感想文を書こう！

北海道学校図書館協会

小学校低学年

メーカーによるコメント（e-honサイトorメーカーサイトより）
選定部によるコメント
ISBNコード

さくららら

升井 純子/作
小寺 卓矢/写真

アリス館 1,400円+税



日本一遅く咲く桜、千島桜のさくらちゃん、背も低く他の桜とは全然違う。少し不安もあるけれど、さくらちゃんはゆっくりじっくり準備して、自分の一歩を踏み出す。
満開の桜の写真に「わたしがさく日は、わたしがきめる」
私らしさの心意気が見事な絵本。

978-4-7520-0954-2

きたきつねと はるのいのち

手島 圭三郎/絵・文

絵本塾出版 1,700円+税



3月になっても深い雪に覆われている北海道で、きたきつねは、生まれた子どものために餌を探す。冬は動物にとって厳しい季節。親から離れた子どもが、餌をとれなかったり、年老いた動物が死ぬのは、冬が多い。
やがて厳しい冬が終わると、暖かい春の日差しに包まれて、きたきつねは生きる幸せを感じる。

978-4-86484-173-3

すみれちゃんと ようかいばあちゃん

最上 一平/作
種村 有希子/絵

新日本出版社 1,300円+税



山また山のその先に“ようかいばあちゃん”は住んでいる。
曾孫のすみれちゃんは、今晚一人でお泊りする。暗闇からヌッとようかいばあちゃんが姿を現した。
しわだらけの顔が一瞬ピーンとふくらんだ。「アッ、変身した」と思ったら、両手でだきつかれた——「まってだよ」
すみれちゃんのワクワク体験の始まり、始まり。

978-4-406-06600-6

ゆきのようせい

松田 奈那子/作
石黒 誠/監修

岩崎書店 1,400円+税



北海道に住む子どもたちにとって、冬を知らせる虫として、なじみある雪虫。神秘的な雪虫を、冬を迎える生き物たちと共に優しく描く絵本。
秋の終わり、雪虫は森から街まで、あらゆる生き物たちに冬の訪れを知らせにゆく。ある一匹の雪虫も、りすやくまの親子たちのところへ伝えに行くが、もうすでに知っていたようだ。せっかく来たのに…と落ち込む雪虫。しかし街につく着くと子どもたちが見つけてくれた。そのとき、ある奇跡が…。

978-4-265-08179-0

小学校中学年

クマが出た！助けて ベアドッグ

太田 京子/著

岩崎書店 1,300円+税



ベアドッグとは、クマの気配を感じ取り、ハンドラーに知らせる訓練を受けた犬。このベアドッグを通してクマとともに生きる方法を考えられる本。人家などに近づく「迷えるクマ」を、人もクマも傷つけることなく、森の奥へと追い返すベアドッグとハンドラーの取り組みを追う。ツキノワグマ保護管理を行う軽井沢のNPO法人ヒッキオを長期にわたり取材。

978-4-265-84028-1

きけんなゲーム

マロリー・ブラックマン/作
もりうち すみこ/訳
佐竹 美保/絵

文研出版 1,300円+税



サムは生まれつき病気のため、みんなと同じことができない。サッカーをしたり、走ったり。もちろん、海外旅行などもついでに。『ローモンド湖への林間学校へ行きたい。』と、願っていたサムは、ついに両親から参加の許可をもらった。でもそれは「きけんなゲーム」のはじまりだった…。

困難に立ち向かう勇気がわく作品。

978-4-580-82462-1

命を救う 心を救う

途上国医療に人生をかける小児外科医
「ジャパンハート」吉岡秀人

ふじもと みさと/文

佼成出版社 1,500円+税



「医療のとどかないところに医療をとどける」という目標をかかげ東南アジアと日本で活動するNPO法人「ジャパンハート」。その創設者である小児外科医の吉岡秀人さんは、三十歳のときにたった一人でミャンマーへわたり、無料で貧しい人たちの診察を始めた。いくつもの困難を乗り越え、忘れ難い患者さんたちと出会ってきた日々をふり返る。

978-4-333-02853-5

小学校高学年

蛾 姿はかわる

イザベル・トーマス/文
ダニエル・イグナス/絵
青山 南/訳

化学同人 1,900円+税



産業革命期のイギリスで環境の変化に適応して生き抜いている「オオシモフリエダシヤク」を美しい絵で紹介。うすい色の蛾と、こい色の蛾。産業革命の大気汚染を生きのびてきたオオシモフリエダシヤクの、進化のおはなし。進化、適応、環境問題、歴史など、考えさせられる。

978-4-7598-2225-0

天の台所

落合 由佳/著

講談社 1,400円+税



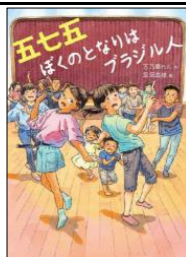
大切な人を亡くした天、陽、光の3兄弟。ひよんなことから近所の「がみバア」に料理を教わるようになった長男の天。料理を通して、3人が立ち直っていく。避けられない喪失との向き合い方、家族の絆を、「料理」を通じて丁寧にやさしく描く。

978-4-06-524718-1

五七五 ぼくのとなりはブラジル人

万乃華 れん/作
黒須 高嶺/絵

文研出版 1,400円+税



言葉も考え方も違う隣の席のブラジル人のラウラ。ラウラは、日本語をほとんどしゃべれない。それなのに、おたがいの手を見て、川柳をつくることに…。

彼女やその家族たちと関わることで、5年生のあさひは「その人を知ると、良さや共通点が見えてくる。人として平等に友達になれる」ということを経験していく。

978-4-580-82477-5

みつばちと少年

村上 しいこ/著

講談社 1,400円＋税



北海道の大自然を舞台に、『みつばちマーヤの冒険』を愛読する少年と、様々な事情を抱えた子どもたちの交流を描く感動作！
クラスの中でうまくやっけていけない中 1 の雅也は、養蜂場を営む、叔父の所で夏休みを過ごすために北海道へやってきた。
様々な事情を抱えた子どもたちが住む「北の太陽」での経験に、雅也は、少しずつ心を開いていく。

978-4-06-522920-0

マイブラザー

草野 たき/著

ポプラ社 1,500円＋税



友達なし・目標なし・未来への希望なし。わんぱくな五歳児の弟・総也の面倒をひたすら見る—そんな海斗のジュウジツした日常が、突然乱されることに。保育園時代の幼なじみとの再会で、まさかの同窓会に発展！？大嫌いなあいつに、ばれてはいけない「ヒミツ」。総也をタテに、平穏な日々を守ろうとする海斗だが…。
十四歳たちの今は、滑稽でちょっと残念だけれども愛おしい。笑って泣ける成長小説！

978-4-591-17146-2